

—— ジェンダー平等求めた女性の連帯 ——

# 千代子から学ぶ民主主義獲得のたたかい

対談・

ワタナベ・コウ

ツルシカズヒコ

ツルシ 桂壮三郎監督の映画「わが青春つきるとも」

—— 伊藤千代子の生涯 —— がついに完成したね。コ

ウも昨年10月、『漫画 伊藤千代子の青春』（新日本

出版社）を出版した。いずれも『増補新版 時代の

証言者 伊藤千代子』（藤田廣登著 学習の友社）を

原作・原案にしている。1905年生まれの伊藤千

代子の生涯を、いま、創作という形で多くの人に知

らせる意義は何だろうか。

コウ 大きく2つあると思うんだけど、1つ目は、治

安維持法下での千代子のたたかいを学ぶこと。千代

子は、戦前日本のファシズム下で反戦平和と民主主

義を求める活動をした。いまからすれば、あたりま

えの主張なのに、検挙され激しい拷問を受け刑務所

に収監された。そういう時代があったことを若い人

たちにも知ってほしい。

ツルシ 千代子たちのたたかいは日本国憲法に結実し、

そのもとで日本は75年間、戦争しなideきた。でも、

世界の状況は大きく変化している。香港の周庭さん

ら民主活動家を逮捕した中国の国家安全法は、治安

維持法とそっくりだ。2月24日には、ロシア軍がウ

クライナに侵攻し、ロシアで戦争反対の声を上げた人たちが逮捕されている。日本でも軍国主義、ファシズム回帰への動きが強まっている。自公政権は、

秘密保護法や戦争法、共謀罪、土地規制法など、現代版治安維持法を強行採決して、改憲を視野に入れている。名古屋入管でのウイシユマさん死亡事件では、特高警察が小林多喜二や千代子らに下した拷問がいまもおこなわれていることが明らかになった。歴史を後戻りさせないためには、先人が治安維持法下でどうたたかったかを学ばなければいけないね。

コウ 治安維持法についても私たちはまだまだ知らない。私も、歴史の本に登場する「稀代の悪法」という単語で知っていただけで、その実像を学んだのは、2016年に「しんぶん赤旗」を購読するようになってから。

ツルシ 『月刊学習』（日本共産党中央委員会発行）で、コウが日本共産党についてゼロから学ぶ「ワタナベ・コウの日本共産党発見!!」の連載が開始されたのも16年だったね。

コウ 「発見!!」の取材で共産党の党史資料室を訪し

て千代子のことを知った。ほかにも3人、治安維持法で弾圧されて24歳で亡くなった女性党員がいたと知ってさらに驚いた。

ツルシ 「発見!!」では、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の故増本一彦会長（当時）にもインタビューしていたね。戦前の専制政治の根幹だった治安維持法や弾圧法規で犠牲になった人たちが家族への国の謝罪や補償がまだおこなわれていないと知って驚いた。

コウ 私も愕然とした。治安維持法は、差別や不平等のない社会をつくりたい、戦争はやめてほしいという庶民の純粋な思いを押しつぶした。そうやって侵略戦争を遂行したわけだよね。それを、自公政権はいまだに「適法」だったと強弁しているなんて許せない。

ツルシ 『治安維持法と現代』2021年秋季号に、「竹橋事件の会」事務局長の内野明和さんが、論文「治安維持法の起源は『竹橋事件』」を寄稿していたけど興味深かった。僕らも「赤旗」旅記事で竹橋事件を取材した。決起した下級兵士は「近頃人民一般苛政かせい

に苦しみ」というやむにやまれぬ思いを持っていた。兵士が思想を持っていることに驚いて、政府は思想統制のための弾圧法規をつくっていき、治安維持法に行き着く。

コウ 兵士の思想の背景には自由民権運動があった。その「最高の形態」といわれる秩父事件も取材したよね。

ツルシ 取材をもとに僕は、2018年、『秩父事件再発見 民主主義の源流を歩く』（新日本出版社）を書いた。日本の自由民権運動は、人は生まれながらにして自由で平等だという天賦人権論を理論的基盤にしている。徴兵や重税に苦しむ貧農や彼らの立場に寄り添った人たちが、学習結社をつくって勉強してたたかったところがすごい。千代子たちも学習して仲間を増やしていったんだよね。

コウ 自由民権運動を受け継いだ民衆のたたかいが、大正デモクラシーの機運を生んだ。この機運を受けて、千代子の思想も発展していった。自由民権運動↓大正デモクラシー↓日本国憲法という、絶対的多数の農民・労働者がたたかってつくった流れの中に、

千代子たち

のたたかい

があったこ

とは重要な

ポイントだ

と思う。

ツルシ 千代

子の生涯を

学ぶ現代的

意義の2つ

目は？

コウ いまの

言葉でいう

ところの



▲ワタナベ・コウ氏

ジェンダー平等を求めた千代子の生き方を学ぶことだ  
と思う。日本の「ジェンダーギャップ指数2021」  
（世界経済フォーラム）は156カ国中120位で、  
異常なジェンダー差別が残る。そのルーツは、「男性  
が主、女性が従」「女性は結婚したら家に入る」など  
の家父長制なわけだけど、千代子はそれに抵抗して

生きた。いまの女性たちに勇気を与えらると思う。

ツルシ 特にすごいなと感じるところは？

コウ 男女含めた高等教育機関への進学率がわずか2・

2%（1920年時点・文部科学省・我が国高等教育のこれまでの歩み）だった時代に、信州の田舎から東京女子大学への進学を果たしたところ。何度も挫折しながら、学習意欲を絶やさなかったことが、ジェンダー差別を打ち破る力になったと思う。

ツルシ 1月9日の、日本共産党の田村智子副委員長とコウの対談「伊藤千代子と日本共産党を語る」のなかで、田村さんが『漫画 伊藤千代子の青春』は「群像劇」でもあると話していた。漫画には、千代子の東京女子大学の後輩・塩沢（下田）富美子や獄中とともにたたかった原菊枝以外にも、平林たい子、河崎なつ、山川菊栄、市川房枝、平塚らいてうなども登場する。

コウ 千代子のたたかいはひとりじゃなかった。戦前日本の女性たちが、限界がありながらも、さまざまに形で声を上げ、女性解放のためにたたかっていた。いまでいう「シスターフッド（女性同士の連帯）」で、

戦後の日本国憲法や女性参政権獲得につなげたことを盛り込みたかった。あなたが感じる千代子の魅力は？

ツルシ 刑務所に収監されたあとも、あきらめずにたたかったところだね。女子房の仲間と工夫して連絡をとりあって、夫だった浅野晃や水野成夫の変節にも追従しな

かったのはすごい。なぜ、あんなにがんばれたんだろう。

コウ やっぱり、学習だろうね。最初は、社会の仕組みを知りたい、広い世界を見たいとい



▲ツルシカズヒコ氏

う自分ひとりの知的好奇心を満たすための学習だった。それが、学校に弁当を持って来られない貧しい子どもをも幸福にしたいという人道主義的な学習欲求に発展し、尚綱女学校時代には「つめたい身震い」を感じながらも「動かねば」の決意を持つまでに飛躍する。そして、マルクス主義への接近。製糸女工ストライキの支援や選挙活動で理論を裏付け、あきらめなければ未来は変えられるという確信を強めていったんだと思う。

ツルシ 諏訪高女でアララギ派歌人の土屋文明に英語を教わったことも大きいだろうね。

コウ 文明は千代子の死の6年後、1935年に千代子の母校・東京女子大で講演をした。聞き入る学生の顔を見ていて千代子のことを思い出したんだろうね。6首の短歌を詠んだ。

ツルシ で、短歌雑誌『アララギ』（昭和10年11月号）に掲載している。「こころざしつたふれしをとめよ 新しき光の中におきて思はむ」「高き世をただ目ざす 処女（おとめ）らここにみれば 伊藤千代子がことぞかなしき」など。戦後、この短歌に登場する「伊

藤千代子って誰？」というのが、千代子顕彰運動のきっかけになった。

コウ 35年は日中全面戦争直前で、言論弾圧が激しかった時期だよ。短歌界の巨匠になっていた文明が、治安維持法で逮捕された千代子の実名をよく詠んだなど思う。千代子の「こころざし」に、文明の芸術家としての良心が大きく揺さぶられたんだね。

ツルシ 100歳まで生きた文明は、晩年、「赤旗」で共産党への応援の言葉を寄せた。死ぬまで、千代子に恥じない生き方をしようとしたんじゃないかな。ところで、『時代の証言者』を書いた藤田廣登さんから漫画化の提案があったのは、2019年末だったっけ？

コウ 「まだまだ千代子は知られていない」という藤田さんの問題意識に強く共感して、漫画を描くことを決意した。第一次稿の脱稿まで1年くらいかかった。元週刊誌編集者のあなたにも、資料探しや構成上のアドバイスを協力してもらった。感謝してます。

ツルシ いやいや、たいした協力もできませんで（笑）。執筆で苦労したことは？

コウ 第一次稿を、出版社で複数の人に読んでもらったとき、「浅野晃がハンサム過ぎる」という意見があった。悩んだ（笑）。ハンサムだったのは事実なので、このままでいきたいと言ったんだけど、評価が定まっている實在の人物を描くのは難しいね。「裏切者」だから醜悪に描けばいいというものでもない。

ツルシ 史実の創作の場合、事実の根幹を曲げないのは基本だけど、何を誰にうったえるためにわざわざ創作するのか、が重要だね。

コウ 50年近い時間をかけて事実を積み上げた藤田さんの本で十分なんじゃないか、漫画にすることに意味があるのかと悩んだこともあった。

ツルシ 世界的に民主主義の危機をもたらしている要因のひとつにメディアの問題がある。資本力のある新聞社とテレビ局が系列化し、権力監視というメディア本来の使命が機能していない。インターネットもある。歴史修正主義やフェイクニュースがあつという間に拡散される。創作物が「表現の自由」を騙って加担していたりする。映画や漫画も広い意味でのメディアだから、つくり手の歴史観が問われる時代

になった。

コウ 創作は多くの人にわかりやすく伝える力を持つだけに諸刃の剣になる。人類が滅亡しないためには、民主主義の完成度を高くしていくしかない。先人はどうやって民主主義獲得のたたかいを積み上げてきたのか、その歩みを伝えて、民主主義の担い手をひとりでも増やすための創作をしていきたい。千代子たちのたたかいは、日本国憲法に結実して、彼女たちにとつての未来を変えた。この歴史的事実を、未来を担う若者に伝えるために、漫画や映画は力を発揮できると確信している。

（わたなべ こう・イラストレーター）

（つるし かずひこ・ライター）

